

HANDS



Kokura Memorial Hospital



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

20年間培った経験と想いを受け継ぎ、小倉記念病院の腎臓内科は新たな一歩を踏み出します。



腎臓内科 金井英俊 退任

Nephrology

2005年より部長として腎臓内科を20年牽引してきた金井 英俊が2025年3月末をもって退任することとなりました。

4月より、部長の原田健司が引き続き 腎臓内科の部長を務めてまいります。



小倉記念病院
副院長 腎臓内科主任部長

金井 英俊

対 談

小倉記念病院
腎臓内科部長

原田 健司

腎臓内科の

黎明期を作り上げた金井部長。

長年共に過ごした原田部長へ

つなぐ腎臓治療への想い。

—金井先生、20年の歩みを振り返っていかがですか？

金井 2005年、九州大学からの派遣として着任した当時は1人体制でした。北九州エリアでは腎臓内科医が少なく、ちょうどCKD（慢性腎臓病）という概念が出始めた頃でした。この地域は高齢者が多く、透析患者の割合も高かったため、透析予防のためのCKD重症化抑制が求められていました。早期から医師会や行政とタッグを組み、早期発見・早期治療のシステム構築に取り組みました。最初は1人でしたが、定期的に体制を強化し、原田先生も若手として参加、現在では腎臓内科を担える人材へと成長しましたね。

—今後の腎臓治療の展望についてお聞かせください。

金井 透析患者数は近年頭打ちになっていますが、患者の高齢化が進み、心臓病や血管病、糖尿病などの合併症も増えています。今後は全人的な治療が必要で、そのためには腎臓専門医と循環器科の連携、かかりつけ医との情報共有が重要です。

原田 私は特に在宅医療に力を入れたいと考えています。最近、透析治療における往診の重要性が見直されています。腹膜透析の技術も進化し、10年20年と長期継続できるようになりました。高齢の方が最後まで腹膜透析を続け、在宅で穏やかに過ごせるような環境づくりを目指しています。

金井 地域包括ケアの考え方が重要ですね。包括的な家庭透析（integrated home dialysis）という概念を前面に押し出し、可能であればご自宅で、自宅が難しければ療養型施設でゆっくり透析ができる環境を整えたい。患者さんと家族だけでなく、医療関係者や行政も含めた社会全体の満足度が上がる透析

—原田先生は金井先生と17年間一緒に働かれたそうですね。

原田 医師3年目に約1年循環器内科を経験した後、4年目に記念病院に来ました。当時は医師も少なく、スタッフも慣れない状況でしたが、金井先生が構築されていた地域連携のシステムが実を結び始めていました。患者数も当時から右肩上がりが増え、今では約300人の腹膜透析患者さんを管理するまでになりました。特に印象深いのは、金井先生が行政とタッグを組まれていたことです。一時期、田川市に出ていた時に外から見て初めてその取り組みを知り、数年後に透析医療費削減という成果が出て、行政を動かす力、求心力にとっても感銘を受けました。

医療の提供が理想です。小倉記念病院はこの地域の核として出来る基盤は充分あると思います。

原田 金井先生が築かれた基盤を継承しつつ、さらに発展させていきます。特に腹膜透析患者のシームレスなケアに力を入れ、院内だけでなく地域全体での腎臓内科のプレゼンスを高めていきたいと思っています。

—最後に金井先生、メッセージをお願いします！

金井 北九州では19年前に「親父祭り」に遭った際、後ろからタックルされて転倒してしまっただという出来事もありますが、今となつてはいい思い出ですね（笑）。B級グルメも堪能できたり、スタッフやコメディカルに恵まれて非常に有意義な20年でした。20年、やるだけのことばやっただという想いです。

原田 お忙しい中ですが、4月から週1回は金井先生にお越しいただきますので、これからもよろしく願います。



―小倉記念病院での治療の経緯や、現在の透析生活について教えてください。

八尋 小倉記念病院ではじめは腹膜透析を勧められたの。腹膜透析の間は特に食事もうえつけなし、温泉にも入った。ただ、3年経った頃に透析が原因ではなかったんだけど意識を失って入院したことがあって、1人暮らしということもあって、このタイミングで血液透析に変わりました。その時に金井先生が「血液透析になったら体重増加に気をつけてね」って言うてくださったので、本屋さんで透析や栄養の本を買ってたくさん勉強をしました。透析患者は体重増加



「透析は苦痛じゃない」

北九州市戸畑区在住 八尋 綾さん

八尋さんは現在血液透析を行っているCKD患者だ。透析歴は腹膜透析が3年、その後血液透析を始めて13年になる。インタビュー当日も、戸畑区の天神クリニックで透析があったのでそちらにお邪魔させてもらった。



撮影協力：戸畑区 天神クリニック

率は3%以内って言われていて、最初の頃は、「食パンを食べたら200g増えるんだ」とか、何を食べたらどれくらい増えるか全部考えて食事していた。今でも1日10

回くらい体重を測りますよ。もうずっとそういう生活だから、透析はそんな苦とは思わない。透析終わって旅行に行ったりするんだけど、食事が美味しいでしょ。今日はルーを破っちゃおうかなって思うんだけど、やっぱり破れない(笑)。今透析を行なっている天神クリニックさんにも金井先生や原田先生が時々来られるんですよ。その時に、「あれ？八尋さん体重大丈夫？」って言われなようにしなくちゃ(笑)。



天神クリニック 透析室部長 白石 理香さん

―八尋さんの印象はいかがですか？

白石 最初にお会った時に、彼女が透析のコントロールをきちんとされているのにびっくりしました。色々と制限しなければいけない透析は治療的にも辛いことだと思うんですが、いつ移植の話が来てもいいようにって。そのお話を聞いた時、みんなに聞かせたいって思ったんですよ。透析患者の鑑のような方ですよ。

お2人のお話を聞いていると、透析クリニック特有の患者と職員の距離の近さを感じる。透析の大変さはあれど、クリニック内でのコミュニケーションは楽しみのひとつなのかもしれない。

―今1番の楽しみって何ですか？

八尋 今1番心待ちにしていることは、腎臓の移植の順番が来ること。血液透析を始めた時に申し込んだから、もう13年。あと何年生きるかわからないけど、1日も早く移植をして食事制限のない普通の生活をしたい。それが1番楽しみかな。

腎臓移植は他の臓器に比べて待機者も多く、待機期間は約15年と言われている。腎臓移植のタイミングまで八尋さんは身内同然というクリニックで穏やかに透析治療を送っていくことだろう。

腎臓内科透析実績

血液透析

[2023年度]

93件

腹膜透析

[2023年度]

61件

腹膜透析外来管理人数

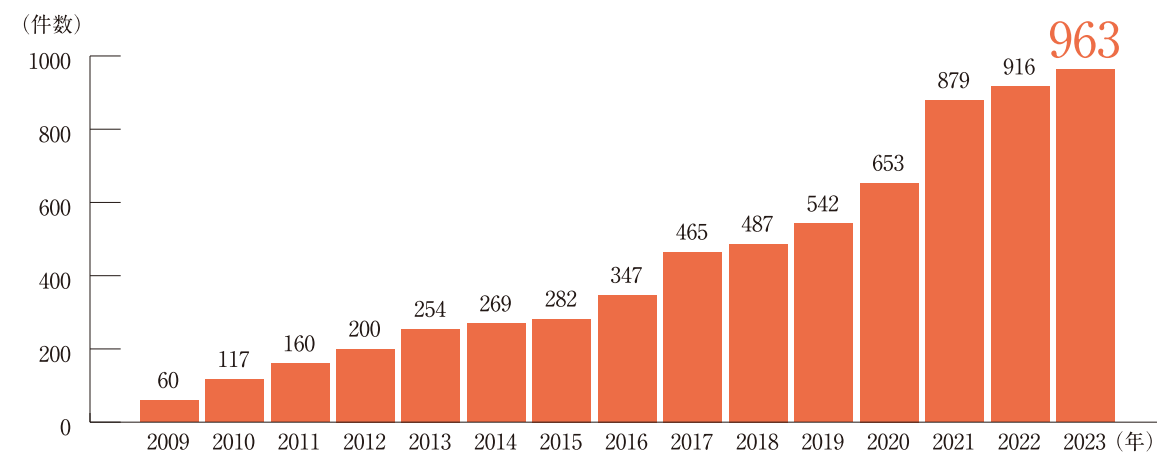
[2023年度]

290人

シャントPTA（経皮的血管拡張術）

シャント血管に狭窄や閉塞が起こった場合に、バルーンカテーテルを使い、狭窄部位にバルーンを膨らませ狭窄部位を拡張する手術。当院でシャントPTAは2009年から開始され、導入年は60件だったが2023年では963件と、右肩上がりで増加している。

【シャントPTA件数推移】



2021年からはバルーン拡張術では長期開存が期待できない病変に対してシャント部にステントグラフトを留置する人工血管内シャントを腎臓内科医が実施している。実施基準が高く、国内でも腎臓内科医自らがこの治療を実施することは少ない。



腹膜透析導入・腹膜透析外来管理人数

日本一 [2023年度]

慢性腎臓病（CKD）の増加により、国内で透析治療を受ける患者は34万人に上ると言われている。また新たに透析を始める患者は年間4万人に及び、患者の高齢化も進んでいる。国内では血液透析が主流でおよそ97%が血液透析による治療を行っており、腹膜透析による治療を行っている患者は3%に過ぎない。腹膜透析と血液透析を比べると、腹膜透析は患者本人もしくは家族による手技や消毒が必要である一方、通院回数が少なく済むことや身体的負担が少ないことなど、血液透析と比べてQOLが高まるという利点もある。では、なぜ国内で腹膜透析の普及率は低いのか。それは、国内では血液透析の施設が多く通院先の選択肢が多い一方で、腹膜透析を実施できる機関が限られていることが挙げられる。当院では、透析の導入が必要になった患者には腹膜透析からの開始を勧める「PDファースト」を掲げている。特に当院では、心臓や血管の機能が低下した患者も多いため、血液透析と比較して時間をかけ緩やかに透析を行う腹膜透析は、循環動態にかかる負担が少ないことが大きなメリットだ。



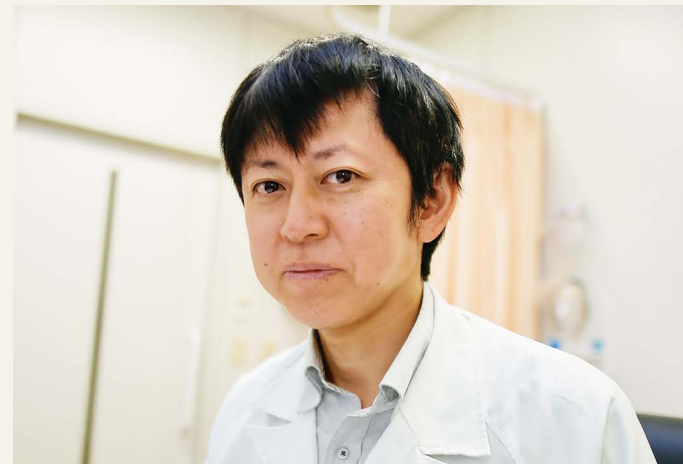
腎臓内科 辰元 良麻 RYOMA TATSUMOTO

- ・日本内科学会 ・日本循環器学会
- ・日本心血管インターベンション治療学会
- ・日本透析医学会



腎臓内科副部長 桑原 郁子 FUMIKO KUWAHARA

- ・日本内科学会 認定医 総合内科専門医 ・日本腎臓学会 専門医 指導医
- ・日本透析医学会 VA血管内治療認定医 専門医 指導医
- ・日本腹膜透析学会



腎臓内科部長 原田 健司 KENJI HARADA

- ・日本内科学会 認定医 総合内科専門医 指導医 ・日本腎臓学会 専門医 指導医
- ・日本透析医学会 VA血管内治療認定医 専門医 指導医 ・日本腹膜透析学会 認定医
- ・国際腹膜透析学会 ・日本インターベンショナルネフロジー学会
- ・日本透析アクセス学会

腎臓を守る プロフェッショナル

小倉記念病院の腎臓内科を受診する患者さんは10年前の約13,000人から、2024年は約20,000人と1.5倍に増加している。年々増加するCKDの患者さんを支えるため、腎臓内科がチームとなり安心して安全な医療を追求していく。



腎臓内科 岡本 和大 KAZUHIRO OKAMOTO

- ・日本内科学会 内科専門医



腎臓内科 中垣 仁博 MASASHIRO NAKAGAKI

- ・日本内科学会 ・日本腎臓学会 専門医
- ・日本透析医学会 ・日本専門医機構 内科専門医
- ・日本腹膜透析医学会



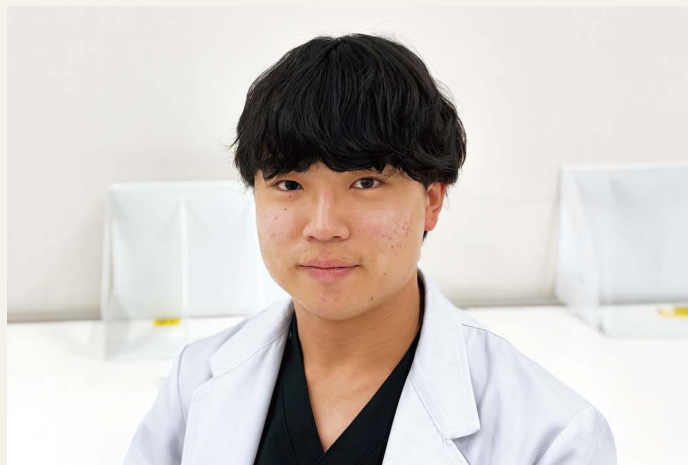
腎臓内科 沖田 純 JUN OKITA

- ・日本内科学会 専門医
- ・日本腎臓学会 専門医
- ・日本透析医学会



腎臓内科 高塚 泰輔 TAISUKE TAKATSUKA

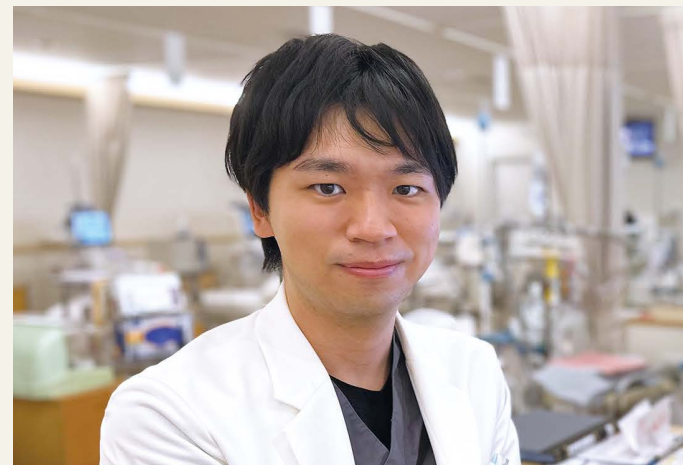
- ・日本内科学会 認定内科医 ・日本腎臓学会 認定専門医
- ・日本透析医学会 認定専門医 VA血管内治療認定医 ・多発性嚢胞腎協会PKD認定医
- ・日本腎代替療法医療専門職推進協会認定腎代替療法専門指導士
- ・腎臓リハビリテーション指導士



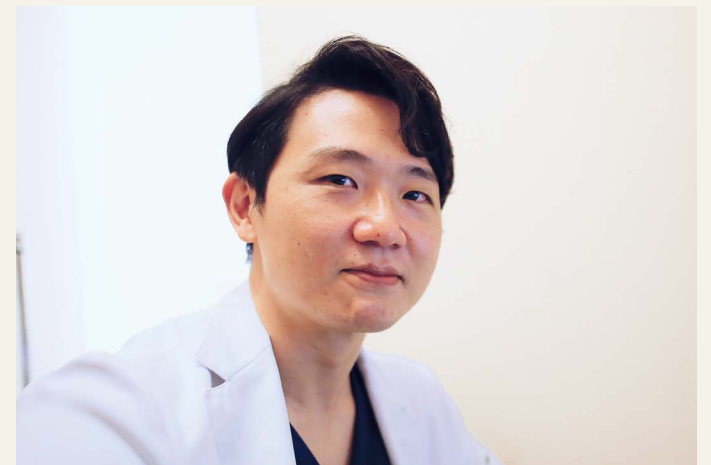
腎臓内科 坪田 孝樹 KOKI TSUBOTA



腎臓内科 阿部 敬介 KEISUKE ABE



腎臓内科 木村 駿太 SHUNTA KIMURA



腎臓内科 菅 浩 HIROSHI SUGA

- ・日本透析医学会